

農業法人による取組事例(おいしい青汁の主原料は、国産にこだわり育てた大麦若葉) [三重県鈴鹿市]

1. 地域農業の状況



○ 鈴鹿市は三重県の北部に位置し、東は伊勢湾から西は鈴鹿山脈に面し、県下第2位の工業都市であると同時に、大地の恵み、海の恵みを受けた農業・水産業が盛んに行われている。

○ 市を貫流する鈴鹿川左岸側南部地域ではサツキやツツジといった植木が盛んに栽培されており、また、茶栽培も盛んで、千年の歴史を誇る伊勢茶ブランドの名は全国に知られている。中でも収穫前に木の上に覆いをかぶせる「かぶせ茶」は、上質なお茶として人気が高い。

○ 当該地域は、高齢化や農業従事者の減少などで、荒廃農地が増加の一途にあり、農地の有効利用や周辺農地に影響を及ぼさないためにも、荒廃農地を解消(再生)する活動が望まれていた。

2. 荒廃農地再生利用の取組

取組主体	(有)緑粋園(りよくすいえん)	地区名	鈴峰地区(伊船町)
再生面積	0.24ha	取組年次	平成27年
作付作物	大麦若葉(青汁の原料)	販路	加工品を農協へ販売

中山間地域の荒廃農地を再生し、高収益の生産・販売を実現 (国産にこだわり育てた大麦若葉)

取組主体は、平成4年に茶の共同生産・販売を目的として設立された若手茶農家数名からなる有限会社であり、この地域では、初めて製茶の共同工場を建設し、お茶の栽培から製茶、精選加工から出荷までの一貫した農業経営を行っている。

平成24年からは農閑期の製茶工場のフル稼働を図るために、再生した荒廃農地を利用して新作物「大麦若葉」(青汁の原料)の生産及び加工を開始したところ。

生産・加工した大麦若葉は、青汁用の原料として出荷販売することで、中山間地域の農地の有効利用と高収益の生産・販売により、所得向上が図られている。

活用した支援策

H27 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)



荒廃農地(再生前)



再生後、一面に広がる大麦若葉畑



大麦若葉の収穫